

「労働組合の今日的役割」

小 口 裕 之 (連合山形 会長代行)

1. はじめに 連合山形とは

何年目になるかですけれども、山形大学の人文学部で「労働と生活」ということで、話をさせていただき、そういう時間を取っていただいておりますけれども、まず、感謝を申し上げたいと思います。今日は3回目ということですので、もしかすると前にも、そのことは聞きましたということがあるかもしれませんが、私の方からも今日、話をさせていただきたいと思います。私は、元小学校の教員をしております、教職員組合という労働組合です。そちらの役員をしておりました。そして今、連合山形で役員をしているということでもあります。話が合ったかと思っておりますけれども、連合山形には、様々な労働組合が参加しています。私が所属している教職員組合や高校、特別支援学校の先生方の組合、自治体職員の皆さん、県庁の職員のみなさん、あとは、民間の企業のみなさんです。電機関係、電力関係、運輸関係、あとはサービス業関係、金属・ものづくり、そういった幅広い労働組合になります。いろんな労働組合が結集して連合山形という組織をつくっているということになります。連合は全国組織です。全国では、700万人ぐらいの労働者が連合に結集しています。今は、1,000万人組合を作ろうということを取り組みをしています。そのような状況であります。それで、各職場で、すべて労働組合があるかという、そういった状況ではありません。まず皆さんには、労働組合とはどういった組織なんだろうと疑問をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、是非、その辺は質問させていただいて結構です。今日は、私の知っていることを精一杯話したいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。それでは、話に入る前にお聞きします。皆さんのアルバイトの経験についてです。アルバイトの経験はありませんという人いますか。(挙手なし)では、皆さん経験がありますね。どんなアルバイトですか。あ、カフェとかですか。居酒屋さんみたいところとか、いらっしゃいますかね。それで、アルバイトをしながら、ちょっと困ったな、とか、そんな経験はないですか。(反応なし)皆さん、優しくしてくれている。楽しくアルバイトをしているということですか。余談なんですけど、この中で仙台に住んでる方いらっしゃいますか。やっぱりいますね。出身はどちらですか。あ、仙台。家から通っている、あなるほどね。もうひとつ方は、仙台出身ですね。2人いらっしゃいました。以前聞いた話なんですけど、仙台が山形よりアルバイト料が高いという理由のようですが、仙台にアパートを借りて、仙台から山形大学に通っているという学生さんがいるという話を聞いて、びっくりしたことがあります。そういう方いらっしゃいますか。いらっしゃいませんね。バイト料は詳しく調べたことがありませんけれども、山形もですね、仙台に負けないぐらいいい所です。人間も温かいし、いい環境だと思います。是非、この山形をよろしくお願ひしたいですね。それと、今日の講座ですが、パワーポイントを作る余裕もなく、昔風の授業、黒板に色々書きますので、宜しくお願いします。講義内容については今日のレジュメに書いてあります。そちらの方をじっくり読んでいただくと、みなさんには理解していただけるとお思います。

はじめに、と書かせてもらいました。それについては後でまとめる段階で話をしたいと思っております。

さて、連合山形ということですが、山形県で一番大きな労働組合の集まりが連合山形です。連合山形そのものが労働組合という訳です。連合山形のことを説明して、労働組合の果たすべき役割について考えたいと思っております。連合山形の運動のテーマは、「働くことを軸とした安心社会」の実現ということなんです。(板書)私自身も駅前の街頭で声を出したりしています。さっき小学校の教員をしていたということを話しましたがけれども、子どもたちは小学生、中学・高校、短大、大学。そして、いずれ社会に出ることになる訳ですから、様々な職業について子ども達が将来幸せに生活してほしいと思っています。すべての・あらゆる労働者の地位向上を目指しています。当然、アルバイトの方、派遣の方、労働組合が無い労働者の方、すべて含めてという意味です。すべての方々の労働条件を良くしたいということ、これが労働組合に結集して今の取り組みの最大の目的になります。

2. 連合山形の具体的な運動とめざすもの

連合山形でやっている1つの運動として、最低賃金改善があります。アルバイトの方も含め、すべての労働者の賃金を上げるという運動もしています。今年、10月から少し上がりました。この話はありませんか。最低賃金の話は、あった？いくらになりましたか。

(学生)「763円です。」

はい、その通りです。実は、最低賃金が1時間あたり24円上がりました。しかし、これまで山形は全国では40番台でした。最低賃金は都道府県で違うんですが、どこがトップだと思いますか。そうですね。東京ですね。東京は1,000円ぐらいになりました。ですからそれぐらい山形とは差があります。何とかその差を狭めなければいけない、そういった事も訴えています。毎年、最低賃金改善だけでなく、地域間格差も改善をするという内容で山形労働局に署名を提出しています。今、山形の最低賃金は763円です。でも、地域で格差が生じています。もっと山形の最低賃金を上げましょうという署名には市民の皆さんからも賛同していただいています。そして、審議会で協議をしている。労働組合側と使用者側。あとは公益と言いますが、中立な立場の代表者、そういった方々で話し合いをして改善額を検討している。そういった状況になっています。今年も10月から改善になりました。そんな取り組みも連合山形はしています。

また、今年の4月から無期雇用への転換の制度もスタートしています。これも話はありませんか？制度の趣旨は、非正規の方が5年間雇用された場合、もしその方が「私はそのまま家庭の状況で非正規のままでいいです」と言えばそのまま非正規ですけれども、「いや、正社員としてやりたいです」となれば、正社員に転換しましょうという内容です。今年の4月から法的に義務付けられています。ただ、いろんな問題もあるようです。

あとはですね、年次有給休暇、「年休」といいます。年間に10日間とか20日間とか、勤務した期間によって自分で自由に休みが取れる日数が決められています。その年休を来年の4月から、使用している側、雇用者は、労働者の皆さんに年休をしっかり取らせることが義務となる法律が施行になる状況です。たとえば、10日間のうちの5日間は、雇用者の責任で取らせなさいという法律です。もし、違反すると30万以下の罰金というような、罰則もついている法がスタートする。そういった状況にあります。

今、お話をしたのは何故かと言うと、皆さんも知っていると思いますけれども、国も「働き方の改革」をしなければならないという動きになっています。「過労死」などあってはならないということで、国会でもいろんな話し合いが進んでいます。この流れの中でこういった法的に罰則規定もつけて、雇用者の責任で年休を取らせなさい、何とか労働者が自由に休みを取れるような働き方に変えていきたいと思いますというねらいがあるのです。ですから、休みを取らせなさいという事業主への縛りができるわけなので労働者からすれば良いことだとは思いますが。しかし、よくよく考えるとですね、もともと年休というのは自由取得なんです。決められた日数は取得の理由に関わらず自由に取っていいことになっています。理由は言う必要もありません。たとえば、「今日うちの〇〇が〇〇なので休ませて下さい」とそこまで言わなくていいんです。「年休お願いします」と断れば年給は取って良いことになっているのです。そう考えると罰則付きで義務化にしないと取れないという職場環境はどうなんだろうかとといった疑問もあります。ただ、今、連合山形に結集しているいろんな労働組合の職場の様子を聞いてもですね、「年休は取りやすいです」という職場はあまり聞きません。なぜ年休が取れないと思いますか？ ちょっと具合悪いだけではなくて、今日気分転換したいとか、ちょっと好きな映画を観てリフレッシュしたいとか、「明日から頑張るために」取ってもいいというのが年休なんですね。そういった労働者の権利はあるんだけど、今なかなか取れない状況にある。なぜ取れないのでしょうか。

1つは、自分が休むと周りの人に迷惑をかけてしまうとか、自分が抜けると仕事が滞ってしまうとか、そういった雰囲気がだんだん積み重なってなかなか年休すらも取れないという職場環境になってしまっているということだと思います。それらについては、これからいろんな職場の方がここに来てお話をしますので、いろんな職場で職場環境が違いますから、その中で詳しく話されると思います。是非、聞いていただければと思います。

ですから、連合山形は、もう1回言いますが、アルバイトの方も含めて、社会に出て、あと皆さんのように学生さんでも、アルバイトをしているという方々、そういった働く人、すべての働いている方の労働環境を良くしたいという願いと、さらには、運動を通して社会をより活性化したいという願いで連合山形は様々な取り組みをしています。まず、最初に御理解をいただきたいと思います。

3. 寄付講座の趣旨と労働組合の役割

最初に「寄付講座開設の趣旨」と書きました。3つ書いてあります。その前に、「将来こんなことをしたいと決まっていますという人は？」(挙手なし)「まだそこまでは決まっていないという人は？」(挙手多数)「ですよね。」それで、これからみなさんが職業に就かれてみたけれども残念ながら離職することにしましたという人が3割と書きました。これは大学を卒業された皆さんの離職率です。ちなみに補足しますと、中学校卒業の方だと離職率は6割と言われています。高校・短大卒業ではほぼ同じ割合なんですけど、どちらも4割と言われています。大学を卒業して、ようやく就職したんだけど、残念ながら3年以内で職を辞めましたという方が3割もいらっしゃるという実態が依然として続いているということです。あれほど頑張って就職活動をしたのになぜ仕事を辞めると思いませんか？ 「辞める理由は何だと思いませんか？」

その理由として言われているのが、1つは賃金の問題ですね。賃金を受け取ってみたら天引きされたりして実際の手取りが全然違うんじゃないとか、入社前に聞いていた賃金とちょっと違うという場合があります。2つ目は、先程も言いました年休が取れないとか、そういったことです。様々含めて労働条件と言っていますけれども、労働条件が原因と言われています。また、ひと月のノルマがあって、それを終わすまではなかなか仕事をやめられない、帰れないという、今、大きな問題になっている長時間労働ということも当然原因になっています。あとは、上司や同僚との人間関係です。まわりに相談できる人がなかなかいないということが大きな原因になっているようです。それで心身共にストレスを抱えて、残念ながら離職にいたってしまうと言われています。それで皆さんには、少しでも、前もって、心の準備をしてから社会に出ていただきたいということです。

みなさんも、もしかすると同じような環境に巡り合ってしまうかもしれない。社会にでて初めて経験するよりは、困った時の対処方法がある程度知っておいて頂きたいということです。是非、これからの講座の中で、社会の現状や状況を理解していただきながら、自分だったらどうするか、そんな場合はどうすればいいのかということを少しでも皆さんに考えていただければいいのかなと思います。プリントに「→ジョブサポート」と書きました。これは山形県でも行政として、県内企業の紹介や業務内容など、様々説明会などを実施しています。行政としても、前もって会社の理解を深めることで何とか離職率を減らしたいと努力をしています。行政も「ミスマッチを減らしたい」ということで、一生懸命やっているということの紹介でジョブサポートと書きました。

2つ目として、労働者の権利というものがありますから、是非、理解をした上で社会に出ていただきたいということです。その権利を知る上でも「労働組合はありますか」という率直な質問でもいいと思うんですけども、「労働組合があります」となれば、労働組合に行って、「実はこういう状況なんですけれども、どうしたらいいんでしょうか」と、相談することができます。それは一番の助けになると思います。もし、労働組合がないとなっても、労働組合は自分たちでも作れます。労働組合は2人で作れることになっています。今の職場に不満はないですか、労働組合を作りませんかと相談しながら、2人でも労働組合を立ち上げることができるんです。でも、2人だけでは社長さんと交渉する時は力が弱いですね。なんだ2人だけかとなれば、なかなか話を聞いてくれないと思いませんか。ですから、最初は2人でも、少しずつ同じような意見を持つ人に集まってもらえることが大事です。やっぱり多くの皆さんと一緒に自分達でこうしたいとか、こうして欲しいと声を上げることは、2人の声とは全然違うわけなんです。ですから、そんな風にして私達の先輩は今の労働組合を作ってくれたと思っています。私達はそれをなんとか守らなければと今頑張っているということです。

ちなみに東京の方で高校生が組合を作りましたというニュースがありました。覚えている人いますか？ 俗に言うブラックバイトということで、労働組合を結成したというニュースです。皆さん覚えはないですか。高校生や大学生も作りました。試験があるので休ませてくださいと言ったらそれはダメと言われたということもありました。それで学校の試験も受けられないとかね。アルバイトなのに試験でも休んでダメなんていうのは大問題ですよね。みなさんはどう思いますか。そんなアルバイトの働き方はおかしいということで大学生や高校生たちは自分達で労働組合を結成したというニュースです。大学生は20人ぐらい、高校生は5人ぐらいだったと思います。みんなで並んで記者会見していました。学生が自分たちの働き方はおかしいということで労働組合を作りましたというニュースです。自分たちの力で何とかしたいという行動ですばらしいことだと思います。必要となれば実際自分達でも作ることはできるのが労働組合です。

3つ目に書きました。相互扶助の精神と書きました。労働組合はまさに「相互扶助」の精神で運営されています。たとえば、組合員の皆さんから組合費を毎月いただきます。1人1,000円とします。ここにいる皆さんから全員1,000円ずつ出していただいて、それをもとにしていろんな運動をするわけです。平和運動をしましょうとか、こういった大会を開きたいとか、学習会を開催したいとか、たまには皆で集まって楽しい会をしましょうとかを自分たちで企画をするのです。何をするにしても当然予算は必要な訳ですから、そうやってみんなで組合費を負担しながら運営しているのが労働組合です。お互いに金を出し合って、まさに相互扶助の精神で民主的に運営している組織が労働組合です。たとえば、委員長や役員を決めるという時には全員の投票で決めます。何割以上投票しないと無効とかルールがあります。ですから、ほとんど多くの内容は皆さんから承認をいただいて進めているということです。そうした集まりが労働組合です。まさに民主的です。平和を求めて、公正な社会、どんな労働者の人も幸せに暮らせる、そういった社会を求めて運動をしている、そういった組織が労働組合かなと理解をしていただきたいと思います。

ちなみに私は教職員組合です。その経験から話をさせてもらいます。組合員のみなさんと民主的に運動を進めていることはお話ししましたが、組合に入っていない人は一切無視するのかということ、そういうことではありません。こんなことがありました。中学校の先生で、学校に出勤できない状態になり相談にいらっしやったことがありました。その方は、生徒達と上手く人間関係が作れないという悩みを持ってらっしやいました。がんばって学校に出ても屋上から飛び降りたいと思ってしまうということでした。そこまで思いつめて相談に来てくれた人がいました。はじめてお会いした時は、顔色が真っ青で覇気が全く無くてね。とても心配な状況でした。話の途中で「組合に入っていますか」と聞いたら、「入っていません」という返事でした。そういう方でしたけれども。まさか、「じゃあ、あなたは組合に入っていないからお帰り下さい」とはいえないですよ。何度か相談ののっているうちに、顔色もよくなってきたように思いました。結局、その人は、人事異動で別の学校に異動させてもらいました。現在も学校を移られて先生を続けています。相談の途中でその方は組合に入りますと入ってくれました。ですから、私も労働組合として人事異動のとりくみができたということです。相互扶助、皆さんから組合費をいただいて活動するのだけれども、組合に入っていない人は相手にしませんとかというそんな冷たい組織ではありませんので、そのことも是非理解していただければと思います。

4. 教職員組合のとりくみと労働組合の役割

教職員組合では、これまでの運動を通して自分達で様々な権利を勝ち取ってきたということが結構あるんです。その内容をみると、一番多いのは「母性保障」に関してです。女性の先生方の様々な課題を解決してきた歴史があります。1つ紹介すると、かなり前の話になりますが、女性の先生方は48歳ぐらいになると、肩叩きというのがあったんですね。当時は「48才の壁」と言われていました。48歳を迎えようとする頃、校長先生から「そろそろ若い人に譲ってくれないか」と言われる。その方がお辞めになると若い先生が1人入ることになります。人事異動の時期になると俗称肩叩きが行われていたと言われています。わたしは、教員の48歳といえ一番脂の乗り切っている頃だと思います。子ども達といろんな教育活動をし、これからこういうことを子どもたちとやってみたいという年代にそんなことがあったんです。具体的にいうとパートナーが教頭先生や校長先生、管理職になられたという方はすぐに肩を叩かれたということです。「旦那さんが管理職になったんだから、ちょっとあなたはもうそろそろ身を引いても良いんじゃないか」と肩をたたかれたという訳です。「私は続けたいです」と拒否すると、次は教育長さんからも呼びだされたということです。「ちょっと君は断ったそうだけれども、何とか辞めてくれ」と繰り返し説得される。今では考えられないことが遠い昔ですけど実際にあった訳です。この問題に教職員組合として運動したのです。大先輩たちは県庁で団体交渉をしました。県庁の廊下に多くの組合員がずっと座り込んで抗議の声を上げたのです。「それはおかしい。その制度は無くせ」という声をあげました。そして、そのような悪い慣習を無くすことができたのです。大先輩の思いを聞くと「後輩たちには同じようなつらい思いをさせてはならない」という気持ちだったそうです。

また、今、結婚してパートナーが出産をしましたとなると男性の方も特別休暇を貰えます。3日間ですけれども、特別休暇があります。さらに、妊娠が分かりましたとなると、定期検診に行ったり、体育の授業を替わってもらったり、産前産後の休みとかね、母性を保障する制度がどんどん拡大をして広がっていきました。もし、双子でしたとなればもっと休暇の期間が延びるとか、あとは育児のための短時間勤務とか、朝1時間と夕

方1時間、遅めに来て、早目に帰るなど。あとは、授乳するために途中で抜けるとか、そういった権利をいろんな団体交渉をしながら勝ち取ってきたという歴史があります。今、勝ち取った権利を見てみると、大半が母性保障に関することだと気づきます。男女差別や母性保障に対する運動が労働運動の歴史だったともいえます。いろいろ書きましたけれども、様々な問題を解消するのが労働組合の大きな役割です。

5. 山形県内を取り巻く特徴的な情勢と課題

ちょっと話は変わるんですが、次の「山形県内を取り巻く特徴的な情勢」はあとで詳しくは読んでいただくこととして補足しながらお話しします。みなさんは人口減少という言葉は聞いたことあると思います。逆に、日本で人口が増えているところもありますね。そう、東京ですね。山形は今110万人ぐらいなんですが、近年どんどん減ってきています。1年間の減少率でみると、減少率が高いのはどこだと思いますか。そうですね。残念ながら東北地方に集まっているんです。一番減少率が高いのは、秋田県です。秋田県出身の方はいらっしゃいますか？ 2番目が青森県で。3番目が実はここ山形県ということになります。減少の幅が高い所が東北に集まっているという現状です。最初にも話しましたが、山形の人で東京に就職が決まりましたという人は多いんですが、次に多いのが仙台に決まりましたという人です。小学校に勤めていた時の子ども達と会ったりしてね、こんな話をよくします。「いやー先生、就職が決まりました」「本当！良かったねー、どこ？」と聞くと「仙台です」と言われるというのが結構ありますね。それだと当然山形県の人口はどんどん流出をするということになります。

でも、みなさん山形も豊かな自然と、本当にお酒も美味しい、食べ物も美味しいと思います。山形にも良いところいっぱいありますから、是非皆さんにはいろんなところを見ていただきたいと思います。また、人間的にも結構温かい、秋田も青森も温かいと思っていますが、山形は負けなぐらい結構良い風土かなと思っています。実際に労働組合で東北から人を集めて集会なんかをすると、よく言われます。何食べても美味しいねと。これはどうやって作ったのとか聞かれたことがあります。残念ながら私は応えられませんでした。他県のみなさんは山形のちょっとした一品の料理が結構手がかかって美味しいというんです。住んでいると気が付かないけれども、山形のいいところはたくさんあると思っています。人口の減少率とか数字だけを見ていると、少し暗いイメージになってしまうのだけれども、是非、良いところもいっぱいありますので、そんな目で見ていただければと思います。

あとは年齢区分も書きました。限界集落とかそんな言葉もお聞きになった人がいると思います。特に過疎化が進んでいる地域、半分以上が65歳以上とかね、なかなか地域コミュニティとして機能するのが難しくなっているというような地域を限界集落と表現したりしているだけだけれども、そんな状況なんかも出てきますということです。2ページに書いていますけれども、人口が減少すると当然労働力も低下します。そうすると当然、経済の成長も低下する。また、税金収入も減少すれば、いろんな県民や市民・町民にサービスが十分出来ないといういろんな問題も出てきています。

また、今はグローバルな世の中と言われていています。当然皆さんも外国に行ったり、外国で生活をしたり、そんな人がどんどん出てくるかと思っています。短時間でどこにでも行けるわけですから。ただですね、世の中がランプさんじゃないだけだけれども、自分達の国だけが良ければよいか、そこだけに特化してきているという危惧があります。今でも地球的に考えれば、本当に医療で困っている、貧困で子ども達が学校にも行けずに働かなければならない。そんな国がまだまだたくさんあります。そうであれば、もし困っている国があれば、先進国と言われる国で手を差し伸べるとか、そういったグローバルの意識が重要だと思います。まず自分達の得意な分野は世界のために活用していく、そういった意味でのグローバルの精神が重要であるのではないかと思います。2ページに書いたように、人とか、物とか、お金とか、情報とか、そういったものも全世界的なレベルで流通しているそんな状況です。これについては、皆さんも十分、理解をしていると思います。

TPPとかFTAとかも書いていますので、そこもご覧いただきたいと思います。TPP聞いたことありますか。(反応なし)あまり無いですか。米国のランプさんは脱退しましたよね。これまで米国は新自由主義という経済政策をとってきました。具体的な政策だと、すべての関税を無くして物が自由に行き来できるようにしようというのが根底にあります。その考え方は経済の分野でノーベル賞を貰っています。ですから、もし関税をすべて無くして、どの国でも自由に物が買えたりします、そして、いろんな国が豊かになりましたと

なればそれは理想的な社会だと思います。しかし、残念ながら、そうはなっていない。自分の国がいかにかに利益を得るかということに動いてきたと思います。若干ここにも書きましたけれども、だから、そういう理想的世界は難しいんだろうと思います。日本でもどんどん農産物、牛肉やら、米も含めてね、いろんなそういったものがどんどん入ってきたら日本の農業はどうなりますか。日本の農業は続けられない。そういったことも当然出て来るんだろうと思います。

6. 労働組合結成の根拠と役割

労働組合の話に戻ります。日本は、法律で様々な国民の権利を認めています。日本国憲法が根底にあって、例えば、最近テレビ番組にも出ていますが、憲法 25 条は「国民は健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する」とあります。日本人として生まれました、ただ日本人だけではないと思いますが、すべての国民には最低限のそして健康で文化的な生活を保障しますと謳っているんです。ですから私達の運動の中心にはその憲法の趣旨をしっかりと保障しなさいという思いがあります。たとえば、1カ月の賃金で生活ができない労働者がいれば憲法に反しているわけです。どんな労働者でも頑張って汗をかいて仕事をしたら生活ができる。文化的な生活ができる。これは国が国民に補償するとなっていますから、そういった社会にならなければならない、その思いが私達の運動の根底にあるということです。

日本で素晴らしいのはですね、憲法以外にこういうのがあります。聞いたことがあると思いますが、労働基準法という俗に労基法というやつですが、これは働く労働者のための法律です。同じように皆さんも今大学で学んでいますけれども、教育の憲法もある。それが教育基本法。ですから、教育は国籍とか一切関わらずしっかりと教育を受けさせなければいけないという、教育の憲法もあるということ日本国憲法も素晴らしいんだけど、日本の素晴らしいのは労働に関すること、そして教育に関すること、そういった法律もある。さっき最低賃金と書きましたが、それも最低賃金法という法律があります。そこでしっかり生活が出来る最低賃金を保障しなさいという法律があるんですね。ですから、私達は署名をとって、まだ低すぎる、もっと上げるべきだという運動ができるということです。

ですから、労働組合の役割の前に、なぜ労働組合があるかということ、それは法律の下で存在しているということです。そして、労働に関する憲法といわれる労働基準法の中に「労働基本権」というのがあります。それはプリントに書いてあります。団結をする権利が認められている。労働組合を作りたいと言ったら、会社側も認めなければならないということです。まず、みんなで団結をする権利があるということ。2つ目として、「団体交渉権」、「労働協約締結権」とも言いますが、団体交渉をし、約束事を決めるという権利があります。さきほど言いましたが、48歳で辞めろというのはおかしいから、それは無くすべきだというのは団体交渉権を使って交渉をすることになります。3つ目の争議権というのはスト権と言われているもの、ストライキをする権利のことです。それらを労働者には保障するとなっている。労働三権とか労働基本権と言われます。それを根拠として、私達は運動を展開しているということです。

繰り返しになりますけれども、そういった団結権、団体交渉権、争議権をもとに、民主的に働きやすい職場にするために努力しています。ただ、難しいのが、人それぞれの感じ方は違うということです。「これでいいんじゃないか」という人や「いやそれは問題だな」という様々な価値観が職場の中にはあるわけですから、やっぱり話し合いが大切です。一方的にこれしなさいでは、職場は動きません。民主的な職場をつくるのが労働組合の大きな役割かなと思います。2つ目とすれば、チェック機能があります。今コンプライアンスとかガバナンスが大事と言われる。今日もニュースでデータ改ざんの事件で賑わっていました。やっぱり会社としてそんなことをしてはおかしいんじゃないかと指摘することができる、それも労働組合としてのチェック機能としての大きな役割だと思います。

7. 地域活性化に向けての役割

また、連合山形として今頑張っているのが、地域のコーディネーターという役割をなんとか果たしていきたいということです。自民党の石破さんが地域創生担当大臣の時に、大学の講演で話されたことなんだけれど、地方創生には「産・学・官・金・労・言」の連携が重要だということをお話されました。そのことは、本当に間違いないだろうと思います。「産」は、すべての民間企業です。山形であれば農業なんかも含めて、あらゆる産

業です。「学」というのは、大学、短大、高校も含めての学。この官というのは、市役所とか、町村役場とか、俗に言う地方行政のこと。「金」は地方銀行です。「労」が、労働組合。「言」これ何ですかね。これは地域のマスコミです。新聞、テレビなど。これらが一体になってやらないとなかなか地方の創生は難しいということです。これは全国どの自治体にも同じことが言えます。日本全体を考えても共通課題だと思います。考えてみると、今日山形大学にお邪魔しているのも、どことどこですか。そう「学」と「労」との連携です。山大の人文文学部にお邪魔をして、「労働と生活」ということで時間をいただいているということですね。大変貴重な時間です。その他、連合山形では、県、行政に出向いたり、いろんな放送関係、記者の方が取材にいらっしやいます。ブラックバイトの問題をなんとか新聞に載せてほしいとか。今で言えば「働き方改革」を今進めないと本当にこれから大変です。経営する側の方は、少しでも生産性を上げたい、少しでも利益を出したい。だから若干長時間労働しても頑張れというそういう発想になる。ただ労働者側からすると、自分の生活もある、家庭もある、自分のやりたい生活もある。そこは違う訳なので、やっぱり労働者の側に立った働き方改革を今進めていかないといけない、長時間労働をなくということはそう簡単にはいかないと思いますが、連合山形は粘り強く諦めずに訴えていきたいと思っています。労働環境がよくなれば山形で働きたいという人も増えてくるし、山形に住みたいという人も増える筈です。地方創生の根幹です。電通の高橋まつりさんが亡くなりました。電通は30歳ぐらいだと年収いくらだと思いますか。日本企業で5本の指ぐらい入ります。30歳代、結構若くても3,000万ぐらい、社員の平均年収は4,000万ぐらいだったと思います。電通より、もっと大規模で賃金の条件は良いところはあります。ただし、長時間労働という観点から考えれば、高い報酬を出しているんだからもっとやれ、寝ないでもやれ、ぐらいの労働環境があったんだろうと思います。NHKの記者の方にも長時間労働のストレスで亡くなった方がおりました。まだまだいろんな分野で、心的疾患になったり、残念ながら自分で命を絶つてしまったりと、本当に痛ましい状況がなかなか無くなりません。ですから、本当に今こそ労働者を大事にしましょう、きちんと労働基準法に基づいた意識で経営する側も変わっていきましょとそういう運動をしている。

でも、経営者協会など経済団体と話し合いを続けてきていますが、経営者側も変わってきています。その要因としては、労働条件を良くしないと今の若い人は誰も来てくれません。賃金についても、安ければなかなか来ないからです。ですから賃金を改善し、労働条件を改善することで、優秀な人材をなんとか確保したいという意識が変わってきています。もし、まつりさんのような優秀な人材が突然いなくなりましたとなれば、これは企業にとっても大変大きな損失です。優秀な方がずっと長年働き続けてくれるというのは企業にとっても当然これは利益になるわけです。労働者が元気に働き続けてくれることは、スキルも向上し、生産性にもプラスとなり、企業としても大きな利益となるわけです。

8. みなさんに期待すること

最後に6ページに書きました。是非、若い皆さん方ですので、「常識を疑う」と書いています。私は小学校に勤務していたと言いましたが、山形〇〇小学校に勤務しました。そして、何年か後に隣の学校に転勤になりました。すると、教育活動のやり方が全く違うんですよ。1つの学校で学んだ価値観で自信を持って新しい学校にいくとあまり通用しなくてびっくり。また、新しい環境で、新たな価値観を学びます。ですから、世の中にも皆さんのお考えになる常識が全てではないということです。本当にそうだろうかという意識は是非必要かなと思います。その例として、ILO勧告と書きました。これ国連の専門会議なんだけれども、日本の政府に勧告を出しています。何かというと公務員の労働基本権を認めなさいという勧告です。さきほど話した「労働基本権」、小学校教員にはすべて認められていないのです。何が無いかというと、スト権がありませんし、団体交渉をして協定を結ぶことも出来ないとなっています。公務員に労働基本権を認めてない日本はというと。世界から見ると、それはおかしいということです。消防や警察の方も含めて、労働基本権を認めていない日本政府に対して、勧告が出されているのです。「公務員にも同じ労働者として労働基本権は認めるべきだ」という勧告です。これまで10回ぐらい勧告されている。ただ日本政府はそういった方向には動いていないということなんです。日本の常識は世界から見ると変だとなる。

「フランスの少子化対策」と書きました。フランスも同じように少子高齢化という時期がありました。ただ、全く日本と違う発想で今どんどん赤ちゃんの出生率が増えている状況であります。これはネットでもすぐに出てきますので、フランスの取り組みということでね。日本は本当に少子高齢化で困っていますと言いますけれ

ども、じゃあその政策はどうなのかが疑問です。その点、フランスの発想は日本とは違うなというので書きま
したので是非調べてみて下さい。

「歴史」ということは、これはさっき言った先輩方の例も含めてなんですが、その原点を大事にして、自分
達は運動を進めていかなければいけないという思いであります。

「チャレンジ精神」と書きました。まず同僚・仲間と連携をして、そして、コミュニケーションを取りなが
ら、是非頑張ってくださいということで書かせてもらいました。ブラックバイト、労働組合結成の例とさ
っき書きました、そういったものはまさに自分達で自分達の生活を変えていくために行動するという自治的能
力の発揮です。本当に心から拍手を送りたいと思います。私は、当然生産性も大事です。ただ、もっと大事な
のが安全性であり、暮らしている人々が自分の生活は満足だと言える社会だと思います。連合山形の仲間と
一緒に、引き続き運動をしていきたいなという思いであります。

是非、社会人として皆さんのお一人一人の力を十分に発揮しながら、豊かな生活を通して、そしてそれぞれ
夢を持ってがんばっていただきたい。前に大学生のSEALDsというグループもありました。やっぱり政治
を変えないと生活が変わらないというのは根底にあると思います。若い皆さんの発想をいろんな分野で発揮し
ていただきたいということを心からご期待をしながら、時間だと思しますので、以上にしたいと思いま
す。もし何かご質問ありましたら、何でも結構ですので、是非お寄せください。どうもありがとうございました。